

# 東部水産漁港部だより

宮城県東部地方振興事務所  
水産漁港部「みやぎ水産の日」PR広報紙

6月号



(令和2年6月30日発行)

【お問合せ先】水産漁港部内 水産振興班, 漁業調整班

TEL:0225-95-7914, 1473

## 魚市場取材 ～女川魚市場編～

### 定置・底曳網漁業

取材日は休市日の翌日だったこともあり、普段より多くの買受人の方々が競りに参加していました。水揚げについては、主に定置網で「マイワシ」が148t、「マサバ」が36t水揚げされたほか、「マダイ」、「ブリ」等が水揚げされました。底曳網では、練り製品の原料となる「イトヒキダラ」が12tのほか、「カナガシラ」「ホウボウ」等が水揚げされました。因みに、「カナガシラ」と「ホウボウ」は見た目が似ていますが、「ホウボウ」は胸びれに綺麗な模様があります。

また、女川魚市場木村部長によると、当日は入港がありませんでしたが、一本釣り漁業では、昨年5月には水揚げのなかった「ピンチョウマグロ」の水揚げが非常に多く（5月水揚げ338t）水揚げされている一方で、「カツオ」は昨年比に非常に少なくなっている（5月水揚げ6t、前年比1,479t減）とのこと。



定置網水揚げの様子①



定置網選別の様子



水揚げされたばかりのイワシ類



ツブガイ



アンコウ



マイワシ



ブリ



ホウボウ



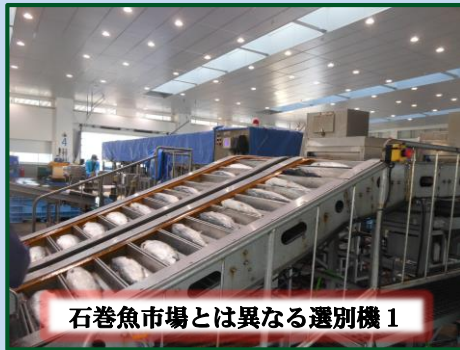
マダイ

# ギンザケ・みやぎサーモン

取材日には養殖「ギンザケ」が53t水揚げされました。また、この日は「みやぎサーモン」の水揚げもありました。

6月に入り「ギンザケ」の水揚げは最盛期を迎えており、6月30日には144tの水揚げにまでのぼりました。女川魚市場では、水揚げは7月末まで続きます。

また、他の養殖魚では、雄勝産や志津川産の刺身用「トラウトサーモン」の入荷も見られるとのこと。



石巻魚市場とは異なる選別機1



石巻魚市場とは異なる選別機2



水揚げされたギンザケ1



水揚げされたギンザケ2

## みやぎサーモンとGI登録

現在水揚げがピークを迎えている「ギンザケ」は、宮城県が養殖発祥の地です。養殖生産量も宮城県が全国1位を誇っており、実に国内の全生産量の9割以上を占めています。今回はその「ギンザケ」のブランドの一つである、「みやぎサーモン」についてお話しします。

### ○みやぎサーモンとは？

「みやぎサーモン」は養殖「ギンザケ」のなかでも、「活け締め」、「神経締め」等の処理を施すことで、高品質・高鮮度を保ったまま出荷されます。その身は生臭さが無く、ほどよく脂がのり、さっぱりとした味わいが特徴といわれています。平成29年には農林水産省により地理的表示保護制度（GI）に登録されました。



水揚げされたみやぎサーモン

### ○GI登録とは？



GIマークとみやぎサーモンのロゴ

地域には、伝統的な生産方法や気候・風土・土壌などの生産地等の特性が、品質等の特性に結びついている産品が多く存在しています。これらの産品の名称(地理的表示)を知的財産として登録し、保護する制度が「地理的表示保護制度」です。（農林水産省HPより引用）

また、登録が認められた産品は、左のように「GIマーク」を使用することができます。

このように、GI登録がなされ、宮城県産「ギンザケ」は日本に幅広く認知されることとなりました。地域のブランドとして広く認められつつある「みやぎサーモン」を、皆様も是非、旬のこの時期に召し上がってみてはいかがでしょうか。

### ○編集後記

私は今年度採用され、今回初めて魚市場取材をさせていただきました。魚市場で魚が水揚げされたり、競りの様子を生で見るのが初めてで迫力がありました。早朝にも関わらず、活気あふれる漁業者さんや仲買人さんの姿に感銘を受けました。皆様も、機会があれば魚市場を訪れ、水揚げや魚の様子を実際に肌で感じていただき、一緒に宮城の水産業界を盛り上げていきましょう。

(K. T.)

# 北上町十三浜支所青年研究会の活動 ワカメ人工採苗

全国でもトップクラスの生産量を誇っている宮城県のワカメは、牡鹿半島以北の主要な養殖種となっています。

ワカメは、種となる遊走子を糸に付着させ（種糸）、その種糸を数センチ程度に切ったものを養殖用のロープに挟み込む等して養殖されています。

ワカメは水温の下がる冬に一気に生長します。約1～3mにまで生長し、収穫され生や塩蔵、メカブ等の形で皆様の元へ届けられています。

県漁協北上町十三浜支所青年研究会では、平成30年から、ワカメの種を糸に付着させる人工採苗に取り組んでおり、先日も来年収穫するワカメの人工採苗を行いました。



①メカブを3時間程度陰干しします。  
陰干しすることで遊走子（種）が出やすくなります。

②陰干ししたメカブを海水と一緒に30ℓのタルに入れて遊走子（種）液をつくります。

③遊走子（種）液をネットで漉し、ゴミを取り除き、海水を張った水槽に移します。



④遊走子（種）液を移した水槽に、種枠を入れて種を付着させます。  
※種枠…種が付着しやすい糸を塩ビパイプや金属の枠に巻いた物

⑤種が付着した種枠を管理用の水槽に移し、LED ライトでワカメの生長に適した明るさに調整します。

今回採苗したワカメの種は、十三浜支所青年研究会の皆さんが水槽の温度管理や照度管理を行い、10月頃に海に移されます。その後、約2～3cmまで生長した11月頃に、養殖用のロープに挟み込みを行い、収穫されるまで大切に育てられます。

十三浜支所青年研究会の皆さん、ご協力頂きありがとうございました。